

沈 国威先生の視線の先

学部長・研究科長
今 井 裕 之

沈 国威先生は、1998 年に関西大学に着任され、26 年間の長きに渡り、本学の中国語教育に多大なご貢献をいただきました。学部創設にあたって、中国語専攻の教育課程の立ち上げに際して、ご専門である中国語と日本語の語彙対照研究や外国語教育法のご研究を活かして、特に ICT を活用した遠隔授業の展開など、本学部の教育を特徴づける様々な取り組みにご尽力をいただきました。先生の母校である北京外国語大学とのスタディアブロードプログラム、ダブルディグリープログラムは、他大学にはない中国留学プログラムであり、先生のご尽力の賜物です。沈先生のご研究活動をここで辿ろうとすると紙面がとても足りない壮大なスケールで、数多くの学会の要職をお務めになり、設立や運営のための研究資金を獲得されました。本学の東西学術研究所長もお務めになっています。また、「関西大学中国語教材研究会」の設立も、沈先生の「学の実化」の素晴らしい業績で、多くの教育研究業績を生み出し、それに関わる研究者や教育者がその恩恵に浴したといえます。四半世紀以上の間、本学部を支えてくださった沈先生が、本年 2024 年 3 月 31 日をもってご退職されることに強い寂寥の念を抱かずにはられません。

関西大学に 2013 年に着任した私は、外国語学部が最初の卒業生を送り出した翌月から働き始めたため、学部の創設期を知らず、専門言語も異なることもあって、沈先生とお話させていただく機会があまりありませんでした。沈先生の深い学識や教育への情熱にもっと触れることができたらと後悔しています。個人的な思い出で恐縮ですが、1980 年代にブリティッシュコロンビア大（バンクーバー）に留学していた際、同じ学寮に、中国系マレーシア、香港、台湾、韓国ほか、私を含め何人もの東（南）アジアからの学生たちがいました。英語で話す日常でしたが、ある日のこと、皆でチャイナタウンに出かけて食事をした際、台湾出身の周くんが、北京語で注文したところ通じず、メニューを指差しながら注文しているのを見て、香港出身の Emily が「それなら Hiro（私）でもできる」と大笑いしたことがありました。それをきっかけに、顔を合わせると、中国語と朝鮮語と日本語で、同じ漢語を使う言葉を探して発音を比べる言葉遊びに一時興じたことがありました。当時の私は、全ての言葉が中国語から他言語に伝わったものだと思い込んでいました。また別の話題になりますが、私の研究面での恩師が、ご専門分野である第二言語習得研究に関わる英語の用語や概念を、日本語（漢字）に翻訳すること

が日本の研究発展には必要だと説き、それを実践されていました。そんな恩師の思いを理解せず、当時の私は、それは骨折り損ではとっていたものでした。沈先生の新漢語の創出と交流(環流)のご研究を、関大に来てもっと早くに伺っていたら、当時の私より、少しは自分も成長できたのにとすると、後悔先に立たずです。

国内外から多くのご参加があった沈先生の最終講義は、これからの研究構想に溢れていたと伺いました。今後も先生の研究生活が一層充実したものになるようお祈りいたします。そしてこれからも先生の視線の先にあるものを私たちに見せてください。沈先生、ありがとうございました。